

輸出事業計画

※申請者名：大分県農業協同組合、品目：梨

1. 輸出における現状と課題

○現状

梨の輸出については、「新高」を中心に施設栽培および貯蔵を行い、主に台湾へ輸出を行ってきたが、H28年度よりタイへの輸出を拡大した。H29年度にはベトナムへ輸出の解禁と同時に「新高」、翌年より「豊水」の出荷を開始し、R3年度は東南アジアを中心に7カ国へ輸出を行っている。輸出の大きな特徴は、中華圏の中秋節、春節などの物日に合わせた輸出であり、全体の79%を占めている。

○課題

韓国産との競争を回避し、高単価販売を維持するためには、大玉で高品質な果実の輸出は欠かせず、選果施設における非破壊選果能力の向上は喫緊の課題である。中秋節向け「新高」の輸出では、需要が非常に高いが、施設栽培が必要であり、生産量が減少している状況である。貯蔵出荷となる春節向け「新高」の輸出では、出荷量拡大に伴い、貯蔵施設整備が必要となり、貯蔵管理作業時間も年々増加している。そのため、今後は「新高」以外の品種で、物日に頼らない輸出への見直しが必要となる。

2. 輸出事業計画の取組内容

【生産面】

- ・貯蔵中の障害等による減耗を抑えるため、輸出用梨に特化した栽培管理・適期収穫・貯蔵の技術を高める。
- ・「新高」以外での輸出用大玉生産品種を検討する（新興、愛宕など）。
- ・選果施設における非破壊選果能力の向上
- ・1-MC P（スマートフレッシュ）を活用した、長期貯蔵技術を確立する。

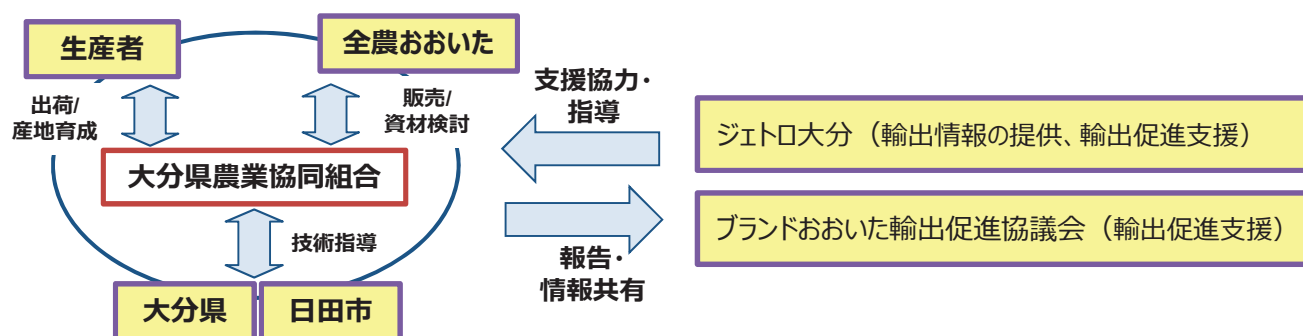
【流通面】

- ・船便による長期輸送での鮮度維持のため、輸送資材の改良検討・制作を行う。
- ・輸送時間（日数）最短に向けた商・物流の構築を輸出業者と共同で行う。

【販売面】

- ・物日（中秋節・春節）以外での販路拡大を行う。
- ・各商談会を通じて、「新高」以外での品種提案とサンプル品の提供を行う。
- ・輸出主要国での試食宣伝、販促活動を実施する。

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制



4. 輸出目標額

	現状（令和3年度）	目標（令和6年度）
輸出額（千円）	56,081	65,000
輸出量（t）	102	130
輸出先国	香港・タイ・台湾・ベトナム等	香港・タイ・台湾・ベトナム等